

11/24～ 北朝鮮人権侵害問題啓発週間について

今週は北朝鮮による人権侵害問題についてお話しします。

1970年代から80年代にかけて、全国各地で、日本人が不自然な形で行方不明となる事件が多発しました。

その後の捜査や、亡命した北朝鮮工作員の証言によって、北朝鮮による拉致の疑いがあることがわかりました。北朝鮮は、長年にわたり日本人拉致をかたくなに否定し続けていましたが、2002年9月、第1回 日朝首脳会談で、ようやく拉致を認め謝罪しました。そして、翌月には、5名の拉致被害者の帰国が、24年ぶりに実現しました。

あれから23年が過ぎた今でも、北朝鮮による拉致の可能性を排除できない方として、871名の行方が分かっていません。

その中には、市島町の西安義行（にしやす よしゆき）さんと氷上町出身の桑村一二三（くわむら ひふみ）さんも含まれています。西安さんは、昭和62年3月15日（日）、21歳のとき、友人と京都府舞鶴市方面へドライブに出かけ、帰宅途中にJR綾部駅前と別れた後、行方不明となっています。桑村さんは、昭和50年9月、21歳のとき、勤務先である姫路市内の飲食店を出た後、行方不明となっています。お二人の行方がわからなくなってから40年から50年ほどの年月が過ぎようとしています。ご家族はずっとお二人の帰りを待ち、行方を捜されています。

国は、拉致問題は非常に重要な国民的課題であり、この問題についての関心と認識を深めるため、毎年12月10日から16日までを、「北朝鮮人権侵害問題啓発週間」として定めています。丹波市では、この啓発週間にあわせ、12月10日（水）から16日（火）まで、丹波ゆめタウン2階特設会場にて、「北朝鮮人権侵害問題啓発パネル展」を開催します。北朝鮮拉致被害に関するパネルや西安さん、桑村さんへ向けたお二人のご家族からのメッセージなどを展示します。また、会場では、「北朝鮮による拉致被害者救出」のシンボルカラーである「ブルーリボン」を配布します。

拉致は、本人が望まないのに連れ去ることであり、身体的自由、居住的自由、家族との絆、そして夢と希望をもって幸せに生きる権利を奪ってしまう重大な人権侵害です。すべての拉致被害者の一刻も早い帰国のためには、私たち一人ひとりがこの拉致問題に関心を寄せ続け、伝えあうことが、力強い後押しになります。ぜひ、この機会にパネル展にお越しいただき、拉致問題の解決に向けて考えてみましょう。